



～かたい挨拶で失礼いたします～

琉球大学医学部器官病態医学科講座 泌尿器科学分野 准教授 大城吉則 (2期生)

琉球大学医学部医学科同窓生の皆様、2009年9月より琉球大学医学部泌尿器科講座の准教授に就任しました2期生の大城と申します。1988年に卒業、その後琉球大学医学部泌尿器科講座に入局し、琉球大学医学部附属病院を皮切りに県内外の関連病院で研修および臨床そして細菌学教室の免疫分野で研究を行ってきましたが、その間多くの同窓会の会員の皆様にいろいろとお世話になってきたことをこの場を借りて御礼を申し上げます。

私はこれまで3人の泌尿器科教授の指導を受けてきました。初代の大澤炯先生は非常に厳しい先生として有名でしたが患者や若い医局員には優しく、医師としての心構えや泌尿器科医として基礎を叩き込まれ、2代目の小川由英先生は小さな体に似合わず非常にアグレッシブで、離島県である沖縄での泌尿器科医療の最後の砦として診療に取り組む姿勢を教えてくださいました。2008年8月から3代目の教授として就任された斎藤誠一先生は臨床と研究の両方にバランスの取れた先生で、臨床は言うまでもなく臨床を発展させるための臨床研究の取り組み方を教えて頂いています。

私の専門分野は、腎移植、泌尿器科腹腔鏡下手術、腎腫瘍ですが、いずれも手術や周術期の管理そして集学的な治療において複数の泌尿器科スタッフや関連する他科の先生方の協力そして最新の設備を必要とするため、これらが充実している大学病院で行うのが理想と考えております。最近ではこれらの診療実績も確実に増えてきておりますので、今後は更なる治療成績の向上は言うまでもなく、後進の指導に力を入れているところです。

私は、2003年6月に約9年ぶりに琉球大学泌尿器科に復職しましたが、救急医療やプライマリ医療のみがより重視される世の中の風潮と新しい臨床研修制度の導入によって、専門性の高い医療を中心とする大学病院のプレゼンスが低下してきている最近の傾向を危惧しております。私は、市中病院では泌尿器科領域でのプライマリ医療を経験し、大学病院では比較的専門性の高い領域を中心に診療を行っておりますが、個人的な経験からは、プライマリ医療と専門医療は対極にあるものではなく、プライマリ医療に精通してはじめてより良い専門医療が行え、逆に専門医療の知識や技能および経験というのはプライマリ医療においても十分に応用されると考えております。また、医療事故そして医療訴訟がマスコミに数多く報道されるようになり、医療に対する国民の目が厳しくなっております。それによって、学生も将来の進路として医療訴訟のリスクの高い外科領域および重症な患者を多く診療するような診療科を敬遠する傾向が見受けられます。今回、泌尿器科准教授を拝命した責務の一つとして、医学部の学生や研修医の先生方には泌尿器科領域は言うまでもなく、琉球大学附属病院で行っている専門医療の重要性、地域医療における貢献度の高さそして専門医療に従事するやりがい等を伝えていきたいと思っております。

最後に、琉球大学附属病院はその規模、整った設備そして豊富な人的資源より、離島県である沖縄での医療の砦となる病院です。初期臨床研修が終了後に琉球大学病院での専門研修を志す医師が増え、活力ある大学病院になっていくことに微力ながら貢献できればと考えております。